

Save The Tropical Forests



森の通信

2013.6.25



▲「ボルネオ・アジール・ギボン」世界で中カマタンでしか生息していない
絶滅危惧種。

CONTENTS

- people 28 C.O.P ハルティさん 3P
- インドネシア帰国報告会 4P
- 「スランウータンの森を守ろう」京都、大阪集会報告
米澤 典治 11P
- 「未来を担うジュレンアン」柳原 里恵 12P
- 「現地で私が見たこと、感じたこと」
武田 裕希子 15P
- 世界の森林ニュース 18P
- 会計より 19P

何が行動を動かすかは計り知れない。今回、タンジュン・プテイン公園の問題についての行動は、新事務局長の石崎君とY原さんたちのBasukiらやタンジュン・プテイン国立公園にかける思いがウータンの活動を加速させたと思う。メールやチャットをバスキと何度も繰り返し、新たな案を生み出し、ウータンからインドネシア政府へのPetition(嘆願書)作成や調査へとやっと動き出した。

1個人が団体へ大きく働き出し、インドネシア NGOs やその他の NGOs もタンジュン・プテイン公園の保全、オランウータンやテングザル保全へと行動の契機になったといえる。個人の思いが全体へ広がり、タンジュン・プテインのある中カリマンタン・コタワリンギン州首長Bupatiのファックスに一杯声が届き、Faxは動かなくなった。開発真近になる(?)Pt.BGA社は足踏みをしたままだ。

世界自然遺産であるタンジュン・プテイン公園は、野生のオランウータンやテングザルを真近でみれる唯一の場所である。こんな地区でアブラヤシ開発は言語道断だ。2年間の森林・泥炭地伐採モラトリアム(一時停止*詳細は世界の森林ニュース)延長が決まったが、タンジュン・プテイン公園外部のジュルンブンや公園内でゾーン地区だったブグルや、これも国立公園で3m以上の泥炭地で農業地のフルク村、スガイ・カバンにつき、モラトリアムの対象地とならないのがおかしいのだ。今からでも大勢がアピールしたら、まだアブラヤシ開発を止められるだろう。しかし、モラトリアムは大統領令で定められたが、違法行為に対し罰則もないという抜け道がある。

要するに多くのインドネシアの人々の自然遺産を守る声がどれだけ広がるかである。団体だけでなく個人もが政府等に申入れを出すという行為が必要だろう。政府に敵対するのではなく、公園の拡大を求め、生物多様性を重視する国家形成の宣伝をインドネシア国民が行うべきだろう。

日本を振り返ると自民党圧勝から、またぞろ、安部政権は「原発推進」を叫びだした。安全確認もおろそかにして温暖化防止に繋がらない原発立地はありえない。インドネシアでもPt.BGAの親会社Harita Groupが石炭火力を非常に推進するというが、泥炭地がカリマンタンに点在しておりCO2の膨大な発生に繋がりがかねない。アブラヤシ開発等があまり進まなくても、インドネシアは結構な経済成長を遂げている。タンジュン・プテインでは観光産業化を地方政府が検討すべきだ。(N)

【ウータン活動報告】

2013.4.23 『通信ウータン 108号』発送、タンジュン・プテイン公園[TPNP]での調査最終確認・嘆願書の持参

4.25-5.9 石崎、インドネシアへ、会議やタンジュン・プテインでの調査へ(5月8日記者会見延期)

4.26 ボゴールでNGO会議、*参加・石崎

4.28-5.6 武田、タンジュン・プテインで調査(4.30-5.4には石崎、武田[TPNP]で調査)

5.25 【オランウータンの森を守ろう!京都集会】*報告/石崎、中村、武田 *ひとまち交流館京都

5.26 【オランウータンの森を守ろう!大阪集会】*報告/石崎、中村、武田 *ドーンセンター

People(28)save! the World's Forests

C. O. P (Centre for Orangutan Protection)
HARDI (ハルディ) さん

オランウータンの保護活動に定評のあるC. O. P. その活動は、カリマンタン全土をレスキューメンバーでキャンプしながら回り、オランウータンを保護し続けるというもの。その代表のハルディさんはまさに Mr.オランウータンという表現があてはまる人物で、顔は着ているTシャツのオランウータンそっくり!? 心は熱く、レスキュー活動以外はほぼ毎日デモンストレーションをしているのだとか。話を聞いた前日もオランウータンの着ぐるみを来て大統領官邸前でデモを行ってきたとのこと。欧米からの支援が主だからこそ、強気の取り組みができるのだろうか?今回実現はしなかったものの記者会見のための会場セッティングをすぐにしてくれた行動力が頼もしい。闘争心の強い、いかにもNGOという感じの C.O.P は、無理な開発をすすめる企業やなかなか環境対策をとろうとしない政府に対して、強くモノの言えるとても頼れる仲間となってくれそうである。(石崎)



ウータン・森と生活を考える会 インドネシア帰国報告会
「オランウータンの森を守ろう！」

1. 今、ボルネオの森で起こっていること

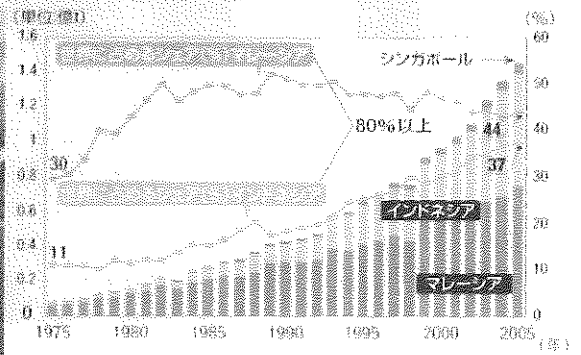
問題の背景



アブラヤシ農園の拡大



世界のパーム油生産量



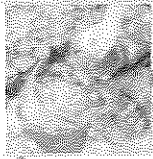
資料提供: IOP, Spawning grounds to grow/22/04/04/04/04/04

ウータンの行ってきた支援

現地NGO・FNPF、タンジュンハラパン村の住民と共に・・・

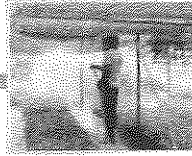
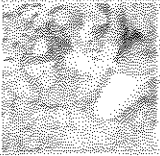
植林用の苗をつくってビジネスに！

種など集め



ポット植え

植林&管理



水やり

子どもたちへの環境教育



村をあげての観光産業



品物は村人の手作り

アブラヤシ農園開発への抗議活動



問題の経緯

- 2012年5月 BLP社がプランテーション拡大するとの情報
- 2012年7月 村の主要メンバーがジャカルタへ行き帰ってきた後プランテーション合意へ
- 2013年1月 村人がBLP社ではなく、BGA社を選択
- 2013年1月 BUPATI（地区の首長）が開発許可をBGA社に与える

ウータンのとってきた対策

- 2012年8月～エコツアーで詳しい状況を知る。知り合いのNGO関係者に相談
- 2012年9月～IMF・世銀総会、COP等で大規模農園開発への融資反対のピラを配る
- 2012年11月～RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）へ苦情を提出
- 2013年1月～インドネシアNGOへ正式に協力要請
- 2013年3月中村さんインドネシアへ
- 2013年4月石崎・武田さんインドネシアへ

2. 現地報告

タンジュンブティン現地調査

1. アブラヤシプランテーション調査 (5月1日) -地図①

- 国立公園外にすでに広がっているBW社のアブラヤシプランテーション。BGA社の予定地と隣接している。
- 調査中に1頭のオランウータン白骨化死体を発見した。
- 上記を含め、現在までに4頭のオランウータンの死体が発見されている。密告者の話によれば20頭以上が殺されたとのこと。



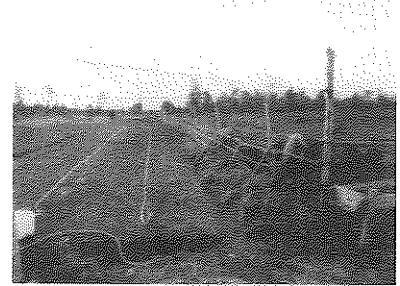
2. タンジュンブティン野生生物調査 (5月2日) -地図②

- オランウータン4頭を発見
(国立公園外2頭、国立公園内2頭(内1頭は親子))
- テングザル15群を発見(国立公園外4群、国立公園内11群)
- FNPfのADUによると国立公園外にオランウータン15~18頭、ギボンも3~4頭はいるだろう。



3. ジュルンブン-地図③

- 国立公園外で川を挟んで向かい側に広がる森。BW社のプランテーションと隣接しており、BGA社の新規開発予定地も含まれる。FNPfは、プランテーションと残された森の間の土地を買い取り、大規模開発ではない収入源を提示しようとアグロフォレストリーを実践している。
- 1月にBWプランテーションが新たに伐採を行った。



4. ブグル-地図④

- 美しい森が広がる生態系の宝庫。FNPfでは数年前の火災で焼けたブグルの森とパダンスンピランをつなぎ、緑の回廊を作るために植林を行っており、ウータンも支援。バッファゾーンがBGA社の開発予定地となっている。
- 国立公園での開発は、世界の国立公園の危機である。
- ウータンの植林現場では順調に苗が育っていた。
- 1カ月前、港町の人々2人が7 km以上の道路を作ったのがFNPfメンバーが目撃した。



5. パダンスンピラン-地図⑤

- かつて地方政府が人々に土地を与えたところで、現在2家族が農業を続けている。
- 30年前から農業、牧畜を続けるDILLAHさん。
「プランテーションは絶対にいや」
- FNPfが32haの土地を購入した。残り8haを購入予定。

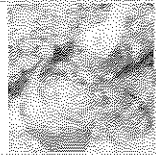


ウータンの行ってきた支援

現地NGO・FNPF、タンジュンハラパン村の住民と共に・・・

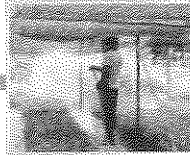
植林用の苗をつくってビジネスに！

種など集め



ポット植え

植林&管理



水やり

子どもたちへの環境教育



村をあげての観光産業



品物は村人の手作り

アブラヤシ農園開発への抗議活動



問題の経緯

- 2012年5月 BLP社がプランテーション拡大するとの情報
- 2012年7月 村の主要メンバーがジャカルタへ行き帰ってきた後プランテーション合意へ
- 2013年1月 村人がBLP社ではなく、BGA社を選択
- 2013年1月 BUPATI（地区の首長）が開発許可をBGA社に与える

ウータンのとってきた対策

- 2012年8月～エコツアーで詳しい状況を知る。知り合いのNGO関係者に相談
- 2012年9月～IMF・世銀総会、COP等で大規模農園開発への融資反対のピラを配る
- 2012年11月～RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）へ苦情を提出
- 2013年1月～インドネシアNGOへ正式に協力要請
- 2013年3月中村さんインドネシアへ
- 2013年4月石崎・武田さんインドネシアへ

2. 現地報告

タンジュンプティン現地調査

1. アブラヤシプランテーション調査 (5月1日) -地図①

- 国立公園外にすでに広がっているBW社のアブラヤシプランテーション。BGA社の予定地と隣接している。
- 調査中に1頭のオランウータン白骨化死体を発見した。
- 上記を含め、現在までに4頭のオランウータンの死体が発見されている。密告者の話によれば20頭以上が殺されたとのこと。



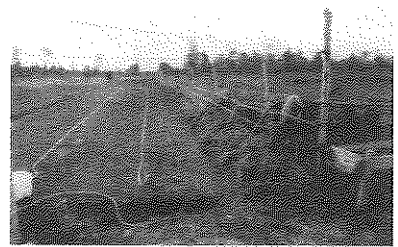
2. タンジュンプティン野生生物調査 (5月2日) -地図②

- オランウータン4頭を発見
(国立公園外2頭、国立公園内2頭 (内1頭は親子))
- テングザル15群を発見 (国立公園外4群、国立公園内11群)
- FNPFのADUによると国立公園外にオランウータン15~18頭、ギボンも3~4頭はいるだろう。



3. ジュルンブン-地図③

- 国立公園外で川を挟んで向かい側に広がる森。BW社のプランテーションと隣接しており、BGA社の新規開発予定地も含まれる。FNPFは、プランテーションと残された森の間の土地を買い取り、大規模開発ではない収入源を提示しようとアグロフォレストリーを実践している。
- 1月にBWプランテーションが新たに伐採を行った。



4. ブグル-地図④

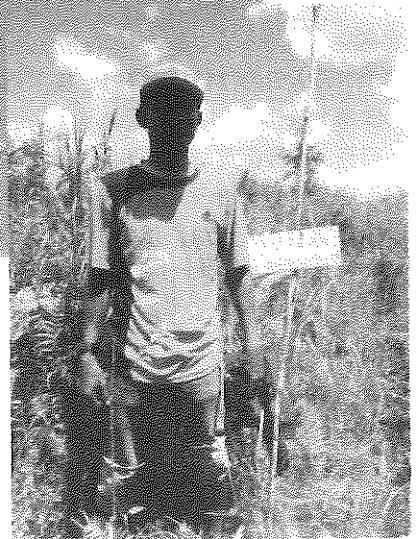
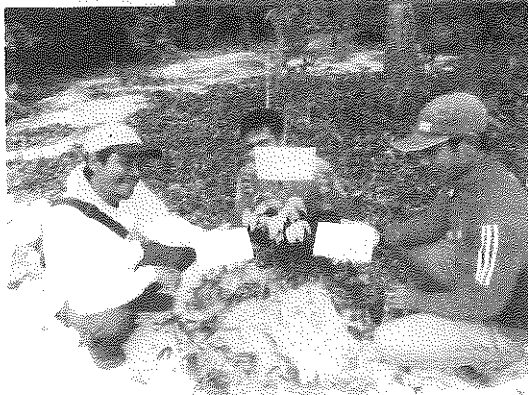
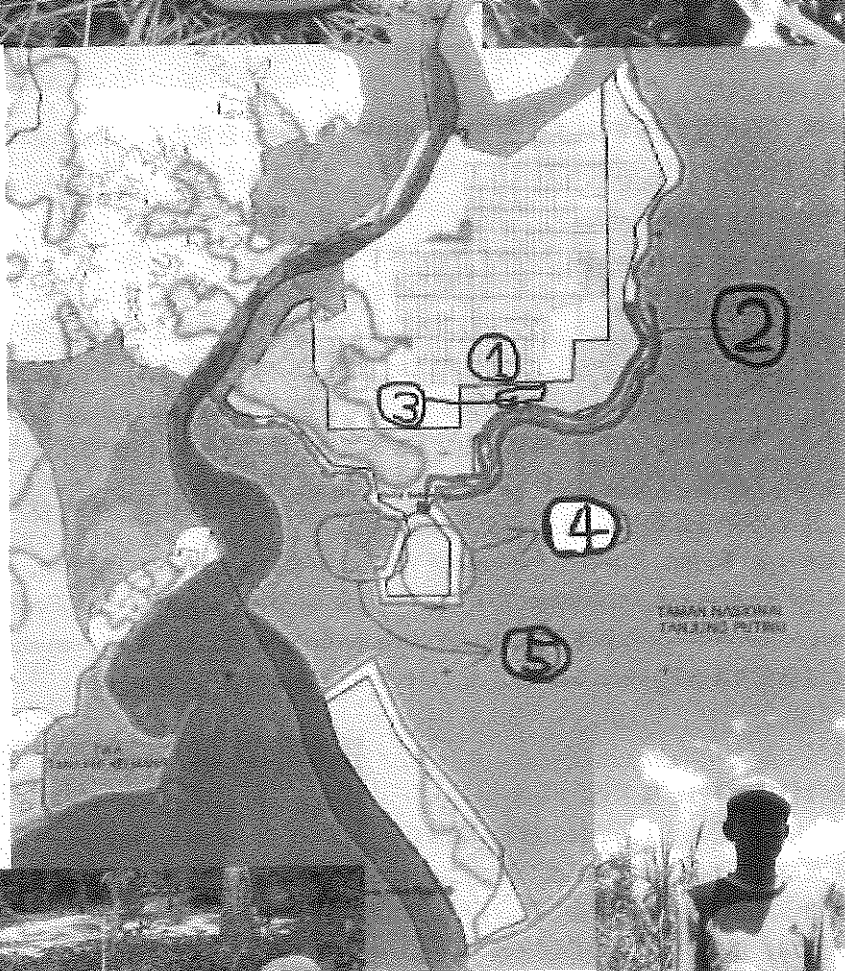
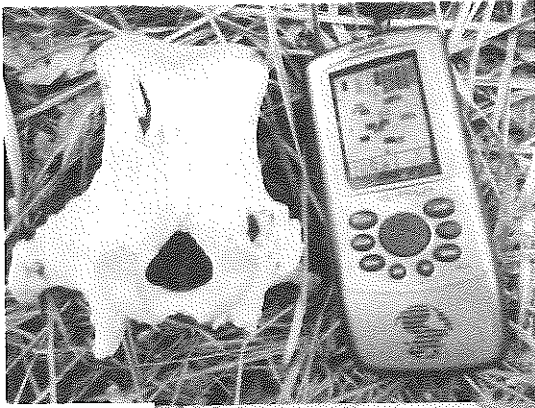
- 美しい森が広がる生態系の宝庫。FNPFでは数年前の火災で焼けたブグルの森とパダンスンピランをつなぎ、緑の回廊を作るために植林を行っており、ウータンも支援。バッファゾーンがBGA社の開発予定地となっている。
- 国立公園での開発は、世界の国立公園の危機である。
- ウータンの植林現場では順調に苗が育っていた。
- 1カ月前、港町の人々22人が7km以上の道路を作ったのをFNPFメンバーが目撃した。



5. パダンスンピラン-地図⑤

- かつて地方政府が人々に土地を与えたところで、現在2家族が農業を続けている。
- 30年前から農業、牧畜を続けるDILLAHさん。
「プランテーションは絶対にいや」
- FNPFが32haの土地を購入した。残り8haを購入予定。





キャンペーン

共同 Complaint letter の提出と記者会見へ向けて

04/26 NGOミーティング

- ・タンジュンブティン国立公園周辺の BGA 社によるアブラヤシプランテーション開発問題について、ウータンからインドネシア NGO に呼びかけて、ボゴールのフォレストウォッチの事務所でミーティングを行った。
- ・ミーティングでは、BGA 社への懸念はすべての NGO が共通して、それぞれの場所の事例として持っており、一箇所だけでなく全体の問題としてアピールして解決すべきだと話し合われた。
- ・話し合いの結果、BGA 社の行いに対するそれぞれの情報と Petition を集めて、Complaint Letter を作り、5月8日にジャカルタでの記者会見で発表することになった。



05/7 NGO ミーティング

- ・記者会見の事前ミーティングとして5月7日にボゴールのフォレストウォッチの事務所に集まった。話し合いにより、Complaint Letter が未完成であること、8日に参加できる団体が少ないことを理由に Complaint Letter の提出と記者会見の延期が決定された。また、次の記者会見の前にプレスリリースを行うことが決定された

出席したNGO、キャンペーンに参加及び協力しているNGO

- ① Sawit Watch
- ② Forest Watch Indonesia(FWI)
- ③ IAR(International Animal Rescue)
- ④C.O.P(Centre for Orangutan Protection)
- ⑤FNPF(Friends of the National Parks Foundation)
- ⑥RAN(Rainforest Action Network)
- ⑦SIES Fund(Save Indonesian Endangered Species Conservation Fund)
- ⑧ウータン・森と生活を考える会(Hutan Group), モデレーター: Yayat (RARE, Telapak)

署名

- 175人分の署名が日本から集まる。
- 5月1日の夜に副BUPATI (地区の首長)の家へ行き、直接手渡した。面会は30秒ほどであった。
- 5月9日空港から、BGA社宛に投函した。
- OBUPATIの元には、世界中から600通を超える署名がFAXされたとのこと。
- 現在、下記のオンライン署名が存在する

『Rainforest Rescue』10万200通

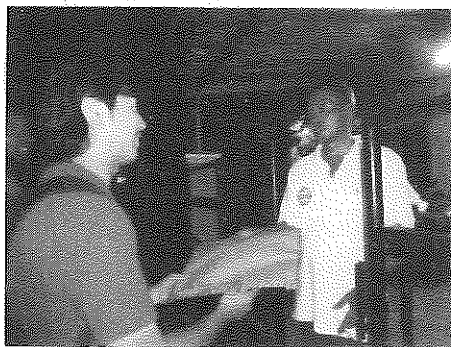
<https://www.rainforest-rescue.org/mailalert/914/orangutans-victims-of-sustainable-palm-oil>

『Save Indonesian Endangered Species』2197通

http://www.avaaz.org/en/petition/Stop_the_Oil_for_Ape_scandal_in_Borneo/

『アメリカのツーリスト』1599通

http://www.change.org/petitions/pak-ujang-iskandar-stop-deforestation-along-the-banks-of-the-sekonjer-river?utm_campaign=share_button_action_box&utm_medium=facebook&utm_source=share_petition



デジタルカメラとレコーダーの寄付

- 日本で不要なデジタルカメラとレコーダーの寄付を呼びかけ、カメラ9台とレコーダー5台が集まった。
- 4月30日ジュルンブンにてFNPFに手渡した。
- 調査等に有効活用するべく、村人やFNPFスタッフで仕分けを行った。

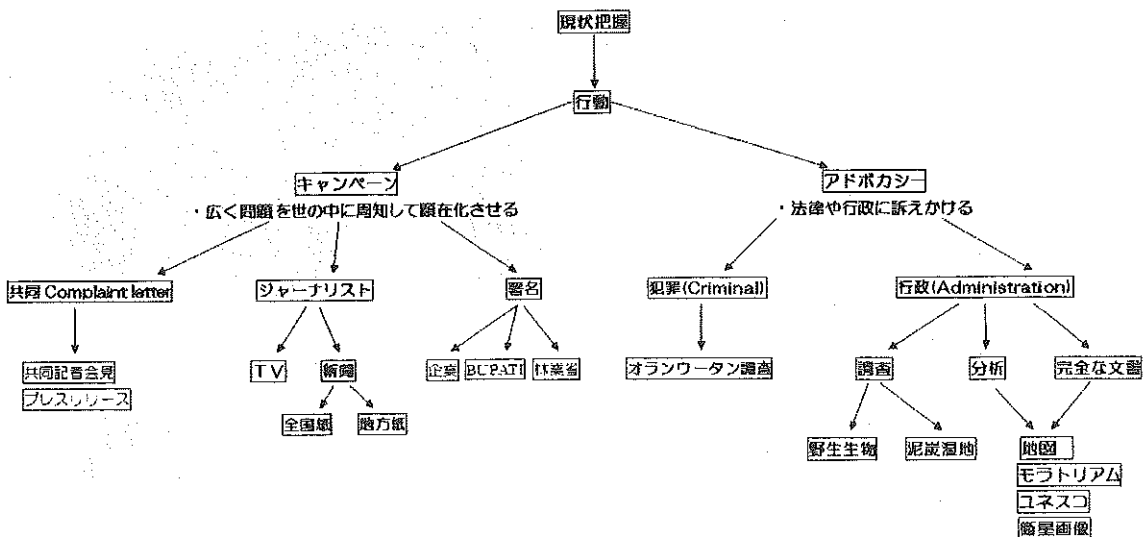


NGOにヒアリング

主に以下のNGOにヒアリングを行った。

- ・ C. O. P() HARDIさん
「オランウータンの調査は得意」
「ボルネオ全土を周り、オランウータンの保護を行うと同時にほぼ毎日のようにデモを行っている。」
- ・ RARE YAYATさん
「地域住民に対する援助は、企業ではなく政府の責任である。」
- ・ Wetlands International Indonesia Programme NYOMANさん
「プランテーションが無くても森が守られるかはわからない」
「モラトリウム延長が直近の大きな課題。」⇒2年間の延長が決定したとの情報あり
- ・ OFI (orangutan foundation international) FAJARさん
「パンカランプンの北西に大きなパームプランテーション計画がある。」
- ・ Walhii (地球の友・インドネシア) ZENZIさん
「アドボカシーが大切。スマトラでは4年間で17社の開発を阻止した。」
- ・ RAN (Rainforest Action Network) Lafcadioさん
「キャンペーンは時間が大事。迅速に行動しなければならない。」

3. 私たちにできること



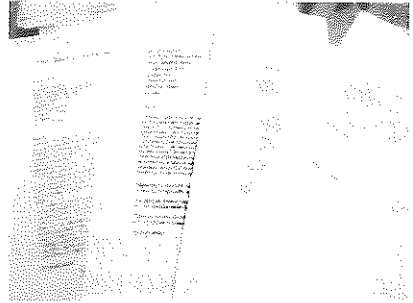
キャンペーン・・・広く問題を世の中に周知して顕在化させる

○Complaint Letter、プレスリリース、記者会見⇒他のNGOと協力する、記者会見を開催する

○メディア、ジャーナリスト、ドキュメンタリー

⇒ジャーナリストを呼び記事を書いてもらう。

⇒ドキュメンタリー映像を撮る、youtubeなどで発信する。



○署名

⇒知人に署名を呼び掛ける。

⇒オンライン署名を集めてみる。

○RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）

⇒苦情処理システムに訴える

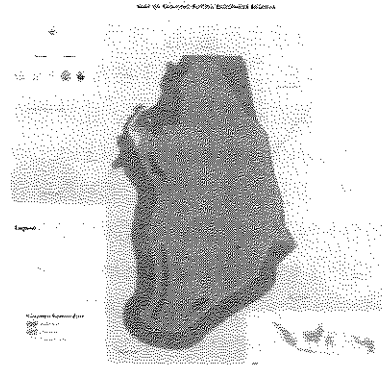
アドボカシー・・・法律や行政に訴えかける

○調査

⇒野生生物調査（オランウータンの専門家など）

⇒泥炭湿地調査（3日間20か所で約4万円）

⇒プランテーション調査（デジタルカメラ、レコーダー）



○分析、完全な文書

⇒林業省発行の地図、モラトリアム地図、UNESCO発行の地図、衛星写真

⇒HGU（企業への事業認可）、土地区分、アセスメント、現地住民の合意・・・

戦略を立て粘り強く「スピリットを持ち、コミュニティと議論し、信頼すること」が大切（Walhi Zenzi さん）

現地ですること・・・自然を守ることを理解を得る、草の根の支援、オルタナティブな収入

○環境教育

○アグロフォレストリー

○苗作り

○エコツーリズム



日本でできること・・・気付き、学び、行動する

○講演会などに参加する。

○自分で調べてみる。

○エコツアーに参加する（現地に行ってみる）。

○知人に伝える。

○状況が改善できるように活動する⇒NGO、社会的企業に参加する。

最後に・・・

○パーム油を消費しているのは誰か？⇒企業は売れる限り生産を続ける。

鍵を握るのは消費者としての私たち。



「オランウータンの森を守ろう！」京都集会と大阪集会の報告

米澤興治

5月25日(土)と26日(日)に、ウータン・森と生活を考える会の主催で「オランウータンの森を守ろう！」京都集会と大阪集会を開きました。

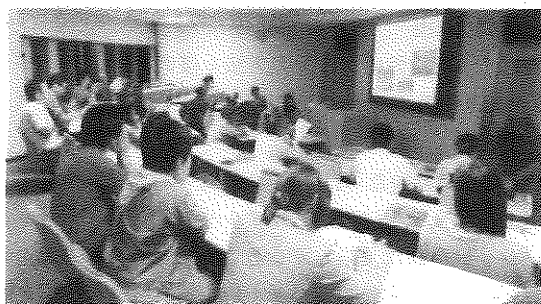
京都の会場の「ひと・まち交流館」では、東京などで活動されているNGOのメンバーをはじめ、若者の参加が多く、大阪の会場のドーンセンターでは、年配の参加者が多かったのですが、いずれの会場でも、ボルネオの現地を訪れたウータンメンバーの報告を、熱心にきいていただき、活発に質問もしてくださり、カンパにも応じていただき、私たちの思いが多くのの方々に、届いたのではないかと感じることができました。

集会では、最初に新事務局長の石崎から、今回のタンジュン・ハラパン村でのオイルパームプランテーションの開発問題について、経過や現地のNGOの動きおよびインドネシアのNGOとの連携などについて報告がありました。

つづいて、中村が3月に現地を訪れてホームステイするなどして聞いた、開発に賛成に回ってしまった住民の考えや、どうしてそうなってしまったかについての報告がありました。

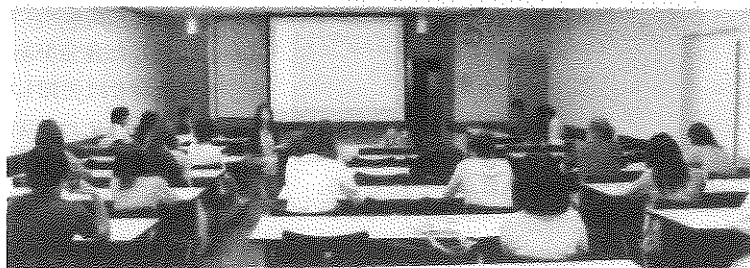
最後に武田から、現地であくまで開発に反対し、ねばり強く地元の樹種での植林をつづけ、森林の再生をめざす人々についての報告がありました。

さらに大阪では、ウータンメンバーにさきだって現地を訪れていた福岡の柳原さんが来られていて、「とにかく、現地に行って現地を見てほしい。」という訴えをしていただきました。



実は、3月はじめに中村が現地を訪れるまで、現地の状況について、現地を含めたインドネシアのNGOなどとメールなどでやりとりをしていたのですが、状況がよくつかめていませんでした。中村が現地に入り、村の人々や、バスキなど現地で活動しているNGO(FNPF)のメンバーと話を

してくれて、現地の様子がかめ、4月末から石崎と武田の現地入りで、インドネシアの多くのNGOとの連携が可能になり、今回の報告会やエコツアーのなどの取り組みを行うことができるようになりました。現地は、大変厳しい状況にありますが、新事務局長をはじめ、ウータンの若手メンバーの今後の活躍がますます期待されます。



未来を担うジュルンブン

柳原 里恵

今年の2月、個人でジュルンブンを尋ねた。ここは、タンジュンプティン国立公園（インドネシア中カリマンタン）に沿って流れるセコニア川の対岸にあり、熱帯雨林が広がっている。この地は、国立公園の緩衝帯になっている森林だが、ここ数年、プランテーション企業がこの一帯の森林をオイルパームプランテーションに転換する動きを激化させており、危機的状況になっている。

この一帯で森林保全活動をしている地元のNGO FNPFF (Friends of National Park Foundation) のお世話になった。FNPFFは環境教育をはじめ、地域住民の生活から取組んだ抜本的な活動をしている。

ジュルンブンの近くに、タンジュンハラバン村がある。この村人は、セコニア川で魚をとり、森から糧を得、多くのものを自然から得ている。そして、この村の森もまた、まさに、プランテーションに飲み込まれようとしている。

半年前までは、村人はプランテーションに猛反対だった。が、突然、賛成に転じ、今まさに、自分たちの森を手放そうとしている。この裏には、村の有力者が企業から賄賂を受け取り、村民を誘導しているとの噂もある。村人は良いことだけを聞かされ、プランテーションの過酷な労働状況も理解しないまま、単に有力者に追従していると思われる。（だが、村の有力者が、事実をどのくらい把握しているかは確認していない。）

しかし、この背景に、この村の大きな問題、子供の学費の問題がある。この村には現金を得る仕事が少なく、学費の捻出が難しいのだ。こういった村人の収入源確保をめざし、収益性のある農業方法を模索している地がジュルンブンである。FNPFFのバスキが中心になり、取り組んでいる。



【写真1】オーガニックファーム。手前はトマト。中央の黄色いものは、水のタンク。

ジュルンブンの農場には、新たに20haの土地が加わっていた（写真1）。新しい農地は、半年前に森林火災で焼失したところだ。ここは、セコニア川上流の金鉱山に近く、オイルパームプランテーションに隣接している。というか、金鉱山やプランテーションが森に侵略してくることを食い止めるために、

これらと森の間に位置している土地の購入を決めたという話だ。この土地の所有者はプランテーションを嫌っており、土地を大切に使うFNPFFへの売却を決めたい。ところが、売らずに貸している土地が一部ある。そこは、以前、池があったところだが、火事で水が干上がった場所だ。即ち、沈殿した養分があり、土壌が非常に肥沃である。その為、土地所有者は売却しなかったそうだ。【写真2】

ジュルンブンには、牛が5～6頭いた。この牛糞で堆肥を作り、農作物に与えるのだ。少量の化学肥料と使い分けをし



【写真2】森林消失前、池だったところ。左の手前がゴーヤ、中央奥がインゲン。

ているが、農薬は一切使っていない。唐辛子の葉の表面にうっすらと白いものがついていて、アドウ（FNPFのスタッフ）にこれが何であるか聞いたところ、『虫がつかないように、吹き付けているんだ。食べても害のないもので作ってるよ。』と教えてくれたが、成分まではわからなかった。

作物は、唐辛子、トマト、生姜、ゴーヤ、インゲンを栽培していた。これらの作物の収益で仔牛を購入し、そして、育て、売却する。さらに、この利益を植林活動にも使う計画だ。即ち、植林活動を含めた、循環型農業を目指している。将来的には、養鶏も計画しており、鶏糞も肥料に追加する予定だ。

また、私が訪れた時には、プールのような深さ1メートルぐらいの四角い穴が掘ってあった。魚の養殖も計画しているのだ。魚の養殖とは、一瞬、唐突に思えた。しかし、バスキが、以前、話してくれたことを思い出した。水銀が金鉱山からセコニア川に流れ出している話を。

村人はセコニア川の魚を食べている。今のところ、まだ、村人に水銀の影響はでていないようだった（2年前の状況）。しかし、時間の問題である。バスキは水銀問題を政府関係に訴えたが、『問題ない。』とし、相手にしてくれなかったらしい。村人にも水銀の怖さを話し、魚を食べないように呼びかけたが、『大丈夫だよ。なんともないよ。』と言って、今でも食べ続けている。しかし、このままでは、確実に、被害は出る。だから、水銀対策のために、魚の養殖を計画しているのだと推測した。

作物の収益性とはいうと、唐辛子が一番高いらしい。今年の唐辛子の収益だけで仔牛を1頭購入できたということだ。しかし、他の地域の出荷量によって、価格が大きく変動することが課題だという。

また、ゴーヤはそこそこの価格だが、肥料を欲しがる作物である。一番肥沃な元池があったところに栽培しており、横の畝には、土が豊かになるインゲンを栽培していた。また、害虫対策に、ゴーヤの実を一つ一つビニールで覆っており、手間暇をかけている。バスキが栽培しているゴーヤは色が白く、凹凸も滑らかで、日本のそれとは見た目はかなり違う。虫がつくのは品種のせいだと思い、『日本のゴーヤは虫がつかないよ。』と、ニコニコしてバスキに言ったところ、『あ〜、里恵。ここは、熱帯雨林だよ。日本と違って、虫が多いんだ。』と、一蹴されてしまった。敢え無く撃沈！

ジュルンブンで栽培している作物は、収穫した作物から来年の種がとれる品種を選んでいて。当たり前ではあるが、品種改良した作物が多い現在、収穫した種を蒔いても、品種が変わるものもあり、作物として蒔くには難しい場合があるのだ。その為、このような品種は、毎年、種の購入が必要になるが、この種代がばかにならないのだ。

また、ジュルンブンでは面白い試みをいくつもしていた。その一つが生姜だ。

生姜は、ちょうど花が咲き始めていた。その横で、葉の根元からザックリと葉を切り取られた生姜があった。生姜（の根）は開花後も成長を続けるため、これを見た時には、正直言って『ギョッ！！』っとした。バスキに聞くと、生姜の葉を牛の飼料に使いたいらしく、今のタイミングで葉を刈り取った場合、生姜の成長にどのくらい影響がでるか調べているとのことだった。

また、トマトは乾燥を好むが、雨季にも路地植えができないか試していた。場所は水はけの良い一番高いところに植えていた。さらに、肥料を与えたトマトと与えていないトマトの成長具合も試していた。それぞれ1畝づつ植え、隣り合わせに栽培していたが、ものの見事に、成長具合が異なっていた。やっとな、花が咲きだした時期であり、まだ、実がなく残念だったが、是非、味の違いを確認したいものだ。

また、マンゴー、ドリアン、ジャックフルーツなどを、農地に向かう小道の脇や、農地の脇にも植えていた。ジュルンブンは、ゆったりとまったりとしたところであり、わくわくランドであった。

だが、1週間前にこの農地の横の森が、またもや、火事になったらしい。農場からパームプランター

ションの方を見ると、農地の先にばらばらと高い木が並んでいた(写真3)。その先で森林火災が起きたらしい。ここからは火災の痕は見えず、『ふう〜ん。』と、他人事のようにバスキの話聞いた。

翌日、アドウがバイクの後ろに私を乗せて、金鉱山に連れて行ってくれることになった。行く途中、森林火災が起きたところを通った。『ここが、森林火災があったところだ。』とアドウが教えてくれた。私は、心臓をぐにゅっと掴まれ、ひねりつぶされたような感覚に襲われた。思わず、バイクを止めてもらい写真を撮った(が、全部、逆光!!)。そこで、アドウが話してくれた。「オイルパームプランテーション企業の社員が、この土地を購入した。そして、森を伐採して、恐らく、火をつけた。その後、企業はこの土地を社員から買ったんだ。多分。村の人はみんな、そう言っている。でも、証拠がないんだ。」「火事は2日間燃え続けた。あその高い木にバスキが登って、2日間も、ずっと見張ってくれたんだ。」と、高い木を指差した。この火事で、30haが消失。ここは、FNPFのオーガニックファームと目と鼻の先であり、しかも、FNPFが拠点としている家の真下である。本当に、すぐ、そこである。しつこいが、人が寝泊まりしている家から、すぐ、そこである。企業は、手段を選ばないのか。奥歯に強靱な力が入り、こめかみが痛くなった。



【写真3】奥にあるまばらな木々の先が、消失した森林。

こんなプランテーション企業には負けられない。ジュルンブンの農場が成功すれば、タンジュンハラバン村のプランテーション賛成派の人達をも惹きつけ、状況が変わるかもしれない。成功させるには、『“いかに売るか”が重要だ。』とバスキは言う。同感だ!『付加価値』がキーワードだと考える。農作物を加工しての高額販売、ターゲットは、高所得者、ツアー客。二次製品は、新たな労働、販売戦略の拡大をも作り出す。収益増加の方策、仕事創出の方策を案出できる可能性がジュルンブンにはあり、タンジュンプティン国立公園一帯の森林の将来をも左右する要と捉えている。

タンジュンハラバンの村人が企業と契約を完了したかどうかはわからない。仮に契約が完了していても、まだ、森はある。村人は、一時的な潤いに感わされず、冷静になり、現実を直視し、もう一度、考え直してくれることを切に願う。今ならまだ間に合う。



【写真4】以前池があった肥沃な地。焼失した大木の株の間で、唐辛子が力強く成長している。

そして、オイルパームを毎日食し、大量に消費している私たちも、私たちが口にしている物が生産される為に、現地で何が起きているかを知って欲しい。そして、私たちに何が出来るかを、個々人が考え、実行することを切に願って止まない。時間がない。しかし、森がある限り、私は諦めない。

ジュルンブンの焼け出された木株の元で、すくすくと育っている唐辛子。ジュルンブンの象徴であると信じている。

現地で私が見たこと・感じたこと

2013年4/27(土)～5/6(月)、私にとっては3度目となるインドネシアへの渡航でした。今回の主な目的は、①現地で今起きている事の把握、②FNPF(これまで共に植林やエコツアーに取り組んで来た、バスキーさんを中心とする現地NGO)のビジョンや想いを理解する事、③それらを踏まえて私達に出来る事を模索する事、でした。

これまでの会報誌や報告会でお伝えしてきた通り、現地の状況はめまぐるしく変化しています。1年前までは、アブラヤシのプランテーションに依存しない『希望の村』を目指していたタンジュンハラパン村。今では村人の大多数が、アブラヤシのプランテーションを経営する企業に賛成してしまっています。

反対を表明しているのは、たったの11人。FNPFのメンバーとバナさん(エコツアーでお世話になっているバナロッジのオーナー)等です。

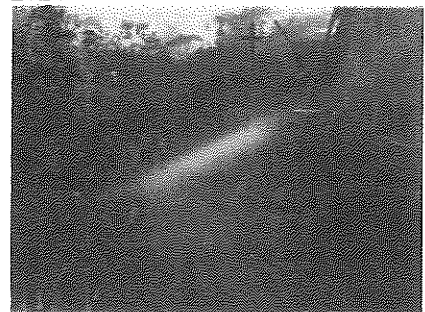


【タンジュンハラパン村の今】

賛成派と反対派の間に目立った対立や争いは無いという事は、既にウータンの中村が3月に現地入りして確認した通りです。

しかしFNPFのメンバー達は「村人は皆変わってしまった。自分達は嫌われている。」と言って、村人に対して不信感を抱いている様でした。そして私自身も、変わってしまった村人を垣間見る事になってしまいました。

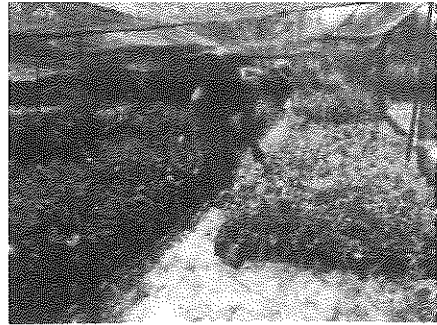
5/1夜、私はFNPFのアドゥさんと2人で村に入り、バナさんとその日のホームステイ先等について打ち合わせをする予定でした。しかし村に着くと、行く先々で「バナはクマイ(スピードボートで2～30分の街)にいる。」と村人に教えられ、仕方なくその日はアドゥさんがホームステイ先を探してくれました。翌朝、船着場にいた村人に「バナさんはもう帰ってきた？」と聞くと「まだクマイだ。」と言われました。途方に暮れてバナさんの家の



扉をノックして「バナさ～ん！早く帰ってきてよ～」と意味もなく叫ぶと、なんと！扉が開いて眠たそうなバナさんが出てきたではありませんか。聞くと、昨晚は予定通り家で私達を待っていたと言います。遅くまで起きて待っていたんだよ、と笑いながら目をこすります。アドゥさんは「嘘をつかれたんだ。今の村人は前とは違うんだよ。」と言いました。

実際のところは分かりません。バナさんも村人と会う機会が減っているのでしょうから、本当に村人のみんなは勘違いしていたのかも知れません。

ただ確かに感じた事は、この状況の中で「アブラヤシのプランテーションには反対だ。」と主張する少数派の方々は、きっと何度も虚しくて心が揺らいでいるだろうという事です。表立った対立は無くとも、些細な事に傷付き、辛い想いをしているのではないのでしょうか。それでも森は大切だ！という想いを捨てずに持っている彼らの支えになりたい。支えなくちゃいけない！私は強くそう思いました。



【FNPF のビジョン】

ウータンのメンバー内では、FNPF が植林を実施する土地が法的に保護された土地であるか否かがしばしば問題視されており、私個人としても、その辺りに対するFNPF の考えを確かめたいと思っていました。

賛否両論かとは思いますが、今回の渡航で確かめた FNPF の想いはこうです。『法がこの森を切り開く事を認めるかどうかに関わらず、我々はこの森を守る！』

現実としてインドネシアでは保護区域の変更が繰り返されており、国立公園区域まで減っている状況です。そうした状況で、法的に守られた土地にだけ植林を行うというのは、少し難しいのかも知れません。

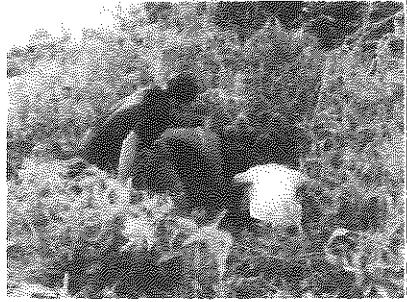
そして私が達した結論はこうです。『この森をなくしちゃいけない』今回現場に行って改めてそう思いました。セコニャール川クルーズ中には 5 頭ものオランウータンに遭遇し、早朝にはギボンをはじめ多くの動物の鳴き声が森から響いていました。このセコニャール川付近の森は今、これらの生物が生息出来る限界まで狭められています。これ以上のアブラヤシプランテーション拡大は、ここに住む生物にとっては死活問題なのです。しかし今まさに森は切り開



かれています。時間がありません。

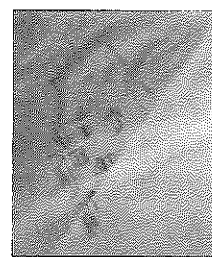
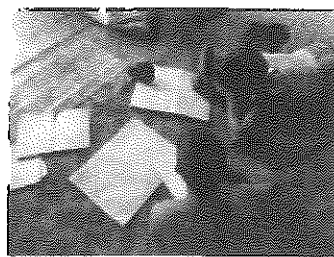
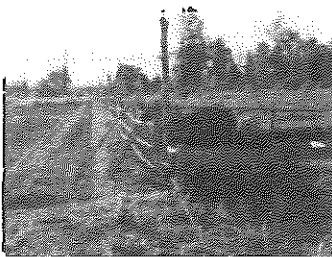
そして何より、現地で活動している FNPF はこの森を諦めていないのです。

バスキーさんの考えを、時に激しい議論も交えて石崎と確認して来ました。バスキーさんは、今ここで起きている問題を世界中に知らせるべきだと考えています。そして世界中から企業や政府に圧力を掛けようとしています。その為



に自分達が一番すべき事は、インパクトのある情報をより多く集めて発信する事だと言います。FNPF は今、アブラヤシのプランテーションを調査してオランウータンの骨を探す事に力を注いでいます（既に4頭発見）。植えられて間もないアブラヤシの若い苗木はオランウータンにとっての食べ物で、つまりオランウータンは企業にとって害獣なのです。

また FNPF は今、パダンセンビランやラマンドゥーという場所でアグロフォレストリーを始めようとしています。私が滞在していた時も、FNPF のメンバーは下右写真の様な図を描いていました。雨水タンク・牛・畑などのレイアウトを考え、新たな土地をデザインしている彼らの背中に、私は希望を見ました。



【私達に出来る事】

バスキーさん達は、この森を守るという大きな目標を達成する為に、自分達がやるべき事をしっかり行っています。

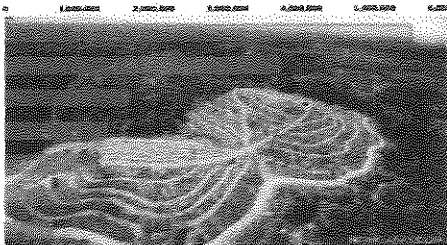
では私達は何をすべきなのでしょう？大きく3つ考えてみました。「①多くの日本人に伝える ②森林破壊を伴わない収入源の提案 ③精神的に支える」具体的には、①報告会（済）・日本での更なる PR（未定） ②苗プロジェクト（企画中） ③反対（少数）派への応援メッセージ送付（未定） etc...

今回の渡航で、出来る事をまだまだ実行していない自分に気づかされました。今後ますます積極的に行動してゆきたいと思います！皆様の力を貸して頂ければ、とても心強く思います。

【インドネシア、2年間の再度のモトリアムへ】

2013年5月20日、インドネシア政府は[新規ライセンスの発行の延期と原生林及び泥炭地の改善のガバナンス]に関する大統領命令第 10/2011 を発布。ユドヨノ大統領は2年間、新しく発行のモトリアムを延長した。欠陥があるが、モトリアムの延長は以前と変わらぬやり方よりもましとの声が多い。もとの2年間のモトリアムは、インドネシアとノルウェー間の REDD に関する取引の下で創設。6500 万 ha 以上面積をカバーするが、大部分は既に保護地域。モトリアム延長であと 1450 万 ha 追加保護すると。この延長は、以前のモトリアムと同様に「抜け穴」を抱えている。モトリアムが原生林だけに適用され、二次林には適用されないという事実に加えて、以前からの伐採権のある森林、サウキビ、鉱山等に適用されない。もう一つの問題点は大統領令が正式な立法(法律)でない。言い換えればこれが実行されなくとも、法的に問題となることはない。グリーンピースは、モトリアムを強化しなかった政府の失敗(大西注: 実行するための法律の制定をしなかったと事)を批判。世界資源研究所 Busch 氏は、2020 年までにCO2 排出削減 26% 目標達成するため、モトリアムは二次林、新規伐採権、既存伐採権の地域も見直し適用範囲を拡大すべきと。(2013/5/22AFP)

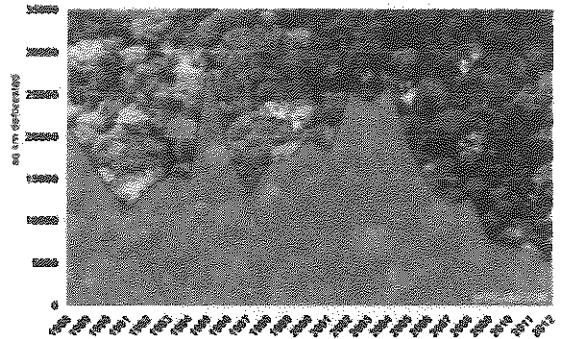
Deforestation in Indonesia, 2000-2009 (from Larsen)



【ガーナの木材輸出の大半8割は違法と】

ガーナで生産の木材の大半が EU 輸出に合法性を満たしていないと、グローバル・ウィットネス (GW) は報告。GW は、「800 強の会社で調査し、[違法の木材が大半]。違法伐採法の下で欧州輸入業者の責任となる。EU の業者はサプライチェーンを徹底的にチェックすべきである」と指摘。

(資料:2013/5/31 Global Witness)



【アマゾン森林減少が昨年増加へ】

ブラジル・アマゾンの森林破壊は昨年 88% と増加。2004 年からアマゾンの森林減少は最高から 80% 下落した。ただ森林伐採と経済成長と関連していないことが重要と。減少の原因は、アマゾンでの牧場開発が 60-70%、残りは広大な農業開発、伐採、鉱山・ダム開発等。(資料: Mongabay.com)

【インディオ等、ベロモンテダム建設に大抗議】

2013 年 5 月 3 日、200 先住民族は、アマゾンでベロモンテ・ダム建設現場の占領を開始。大規模ダムの影響を受ける地域のインディオ達や計画反対の環境保護団体によると、シグー川、Tapajós 等含むピレス川で水力ダム計画の全作業の即時停止を要求している。熱帯ダムは有機物を腐敗させ、メタンからの温室効果ガスを放出し気候変動を起こすと最新の PNAS の科学者は報告。アマゾンのダムは「メタン工場」と呼ばれてる。アマゾン盆地だけで 400 以上のダム計画だ。PNAS/国立科学アカデミー紀要/Mongabay.com 等

【サラワク先住民、ダム建設国際会議で抗議】

2013 年 5 月 22 日、サラワク・マレーシアで国際水力発電協会 (IHA) 世界大会開幕で地元の先住民リーダーは、会議のワークショップに参加を禁じられた後も抗議と論争をした。多くの先住民は、12 の巨大ダム建設で伝統的な土地を有しながら州政府に移動させられた村と生命を脅かされる状態を抗議。同州のダム計画は、間違いなく建設がリポートや賄賂を含みタイプ首相たちの腐敗に繋がっていると指摘。(資料:5/23-29, BMFNews 等)

<会計より>

井下祥子

いつもウータンをご支援いただき、ありがとうございます。

年会費は4000円ですので、よろしく願いいたします。

会費カンパの振込用紙をもって領収に替えさせていただきます。

領収書の必要な方はお手数ですが、振込用紙にご記入ください。

未使用の切手をお送りいただけないでしょうか？

大変厚かましいお願いですが、引き出しに眠っている切手がありましたら、
いただけないでしょうか？

ウータンの活動費のかなりの部分を通信費がしめています。基金をいただいても、家賃や会報印刷、郵送料等、運営費は自前です。ご寄附いただくと、大変うれしいです！

<会費・カンパ等をいただいた方> (敬称略) (2013. 4. 10 ~2013. 6. 8)

市井晴也 井上真 上田廣子 上田真弓 鶴川まき 太田敏一 大西裕子
奥村知亜子 加藤直樹 栗岡理子 澤井敏郎 助友伸子 田岡めぐみ 田邊美穂子
田村節子 恒成和子 堂本暁子 につぽんこどものじゃんぐる・福永一美
由良行基周 龍谷大学 蓮原耕児

<おたよりから>

*体調崩さぬよう、頑張ってください。

市井晴也

*25年度会費。益々のご活躍を期待しています。

澤井敏郎

*応援しています。

堂本暁子

*よくぞ、25年、いつも拝読させていただきながら、敬服しております。

切手代のたしにでもしてください。

福永一美

皆様、本当にありがとうございます。現地調査、国際的なキャンペーン、報告会と、一同精一杯がんばっています。

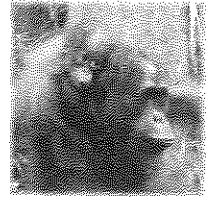
「何が最適な方法か?」「現地の人たちの想いは?」など、論議しつつ、しかしスピーディーに動かなければ!

HUTAN ACTION SCHEDULE

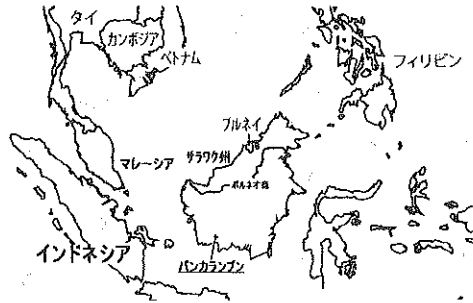


感動! 【2013年8月24日～31日】

ボルネオエコ・ツアー



このツアーでは、ボルネオの森の現状を見学し、進みゆくプランテーション開発の状況と問題点について学びます。また、インドネシアのNGO、FN PFとともに失われた森の再生を目指して植林活動を行うとともに、現地の人々と心温まる交流も行う予定ですので、貴重な思い出作りにもなるこのツアーに、是非ご参加ください!



8/24 土	関西空港→ジャカルタ	午前: 関西空港集合 ＜ジャカルタ泊＞
8/25 日 ↓ 8/28 水	ジャカルタ →バンカンブン →タンジュンハラバン村 (4泊5日)	・原生の種による苗作り ・オランウータンの棲む森を歩く ・子どもたちと環境教育 ・アグロフォレストリー見学 ・アプラーヤシプランテーション訪問 ・苗作り、植林体験 など ＜ホームステイ＞
8/29 木	タンジュンハラバン村 →バンカンブン→ジャカルタ	ジャカルタへ移動 ＜ジャカルタ泊＞
8/30 金	ジャカルター	・NGOのプロジェクト地訪問 クアラランブール経由関空へ
8/31 土	→関西空港(早朝)	早朝着、解散

■ 企画/呼びかけ ウータン・森と生活を考える会

■ 2013年8月24日(土)～31日(土)早朝着

※関西空港発着。他空港発着についてはお問合せください

■ 旅行代金: 178,000円

※関空使用料2,950円、航空保険料・燃油特別付加運賃約26,200円

インドネシア空港税、インドネシア査証代は別途必要
(5/30現在。為替レートや原油価格によって変動することがあります)

■ 最少催行人員8名 ※早めのお申込をお願いします

■ 締切: 7月30日※締切を過ぎてからの申込はお問合せください

■ 現地に詳しいスタッフが関西空港からご案内いたします
※お渡しの旅行条件説明書面をご確認のうえお申込ください

■お申込み・お問い合わせ先

株式会社マイチケット

〒660-0034 尼崎市武庫川町4-27-1 FAX 06-4869-5777

☎ 06-4869-3444

www.myticket.jp

エアワールド社

ウータン・森と生活を考える会

[OFFICE] 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36

サクラビル新館308

「関西市民連合」気付

Tel.06-6372-1561

http://www.hutang.jimdo.com

【一部】300円 【年会費】4000円

【郵便振替】00930-4-3880



◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。